JTBガイアレックと協業へ

日本移湯を守る会　第45回定時社員総会開催

日本移湯を守る会（佐藤好億会長、星雅彦会長）は12月18日、第45回定時社員総会を静岡県・熱海温泉の大観荘で開いた。総会には169人の社員から89人が出席。朝日旅行清算後の4月1日付で、組織をJTBガイアレックに引き継ぐ案の発表のほか19年度の収支予算案の承認、事業報告を行った。

あいさつする星会長

冒頭、佐藤会長会長が朝日旅行解散について言及。「会は大手エージェントが扱いきれない小規模の旅館が集まって集団として45年前に始まったが、朝日旅行と両輪で進んできた。しかし、時代過に陥る前に清算を決断した」と会社清算の経緯を説明した。今後について「会をテーマにしては失うことなった。次にツアーがツーグランプ何を残すなら、価値はあるが、JTBガイアレックに続きの在り方、中身の検討をこれからしていく」と話した。朝日旅行の石田宣伝を行い、参加者をリピーター化するビジネスモデルを展開してきた。森隆社長は「朝日新聞ビジネスは、参加者を18年度の事業実績は「スタンプ帳を新たに6万冊作成し、招待個旧18年1月1日～19年10月31日は1万3898人、夏キャンペーン19年6～9月の「お得プラン」「とっておきプラン」に計34軒が参加し、約1440人が宿泊、宿泊総額が1890万円だったことなどを報告した。

19年度の事業計画では、①スタンプ事業の推進②公式ウェブ予約サイトの販売促進③地熱対策の推進④公式ウェブ予約サイトのリニューアルに向けたソフト開発作業⑤環境省「新・湯治チーム」事業などへの参画―などを発表した。

このほか、佐藤名誉会長から祝い表彰される「日本の旅文化を創る会」が3月31日付で散会することが発表された。

愛媛県旅組

「外国人材」で研修会

制度解説「雇用者の生の声も

愛媛県旅館ホテル生活衛生同業組合（大木正治理事長）は12月9日、同市道後の県松山市道後温泉の「大和屋本店」で「宿泊業における外国人の雇用について」と題した研修会を開いた。同組合主催の外国人材の雇用についての講演した。竹村氏は「従業員の絶対的な不足」に向けての雇用の推進